

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
【部門区分】第1部門第2区分
【発行日】平成17年11月24日(2005.11.24)

【公表番号】特表2001-526565(P2001-526565A)
【公表日】平成13年12月18日(2001.12.18)
【出願番号】特願平10-548529
【国際特許分類第7版】
A 6 1 B 17/16
【F I】
A 6 1 B 17/16

【手続補正書】
【提出日】平成17年4月12日(2005.4.12)
【手続補正1】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】補正の内容のとおり
【補正方法】変更
【補正の内容】

手 続 補 正 書

平成 17.4.12 年 月 日

特許庁長官 小 川 洋 殿



1. 事件の表示 平成10年特許願第548529号

2. 補正をする者

事件との関係 出 願 人

名 称 サージカル ダイナミックス インコーポレイテッド

3. 代 理 人

住 所 東京都千代田区丸の内3丁目3番1号
電話 (代) 3211-8741

氏 名 (5995) 弁理士 中 村 稔



4. 補正命令の日付 自 発

5. (本補正により請求の範囲に記載された請求項の数は合計「20」
となりました。)

6. 補正対象書類名 明細書

7. 補正対象項目名 請求の範囲

8. 補正の内容 別紙記載の通り



請 求 の 範 囲

1. 外科手術中に外科的部位から物質を切除する切断器具であって、
外科手術中に物質を乳化するための乳化手段を有し、
該乳化手段は、外面に少なくとも1つの刃を有する導入先端部と、前記乳化手段を貫通する窓の両側の前縁に設けられた刃とを有しており、
前記切断器具は、更に、外科手術中に前記乳化手段を回転自在に支持するための支持手段を有することを特徴とする切断器具。
2. 外科的部位から物質を乳化するための切断器具であって、
切断ヘッドを有し、該切断ヘッドは、導入先端部と、前記切断ヘッドの内部を貫通する窓の両側の前縁に設けられた刃とを有しており、
前記切断器具は、更に、前記切断ヘッドを外科用の回転ドリルに取り付けるための軸と、
外科的部位を偶発的な乳化から保護するための保護手段と、
を有することを特徴とする切断器具。
3. 外科手術中に外科的部位から物質を切除するための切断器具であって、
外科手術中に物質を乳化するための乳化手段を有し、
該乳化手段は、導入先端部と、前記乳化手段を貫通する窓の両側の前縁にそれぞれ一つずつ設けられ、各々が同一の回転方向に向くようになっている少なくとも3つの刃とを有しており、
前記切断器具は、更に、外科手術中に前記乳化手段を回転自在に支持するための支持手段を有することを特徴とする切断器具。
4. 前記乳化手段の窓は、各刃から角度をなして延びる2つの壁を構成することを特徴とする請求項1又は3に記載の切断器具。
5. 前記壁は、前記窓の開口部に垂直に延びた水平面から 15° ～ 30° の角度をなして延びることを特徴とする請求項4に記載の切断器具。
6. 前記乳化手段は、全体として楕円形の切断ヘッドであることを特徴とする請求項1又は3に記載の切断器具。
7. 前記導入先端部の刃は、半円形であるか、或いは、前記切断ヘッドの外周部

- の周りにぐるりと囲むように設けられた隆起した螺旋溝であることを特徴とする請求項 1～6 のいずれか 1 項に記載の切断器具。
8. 複数の刃が前記導入先端部に設けられ、前記複数の刃は、前記切断ヘッドの外周部の周りにぐるりと囲むように設けられた十字形の螺旋溝であることを特徴とする請求項 1～7 のいずれか 1 項に記載の切断器具。
9. 前記支持手段は、主軸と、取付け軸とを含み、前記主軸は、ねじ山付きであることを特徴とする請求項 1 に記載の切断器具。
10. 外科的部位に隣接した領域を保護するための保護手段を更に有しており、前記保護手段は、カニユーレ又はドリルガードであることを特徴とする請求項 1～9 のいずれか 1 項に記載の切断器具。
11. 外科的部位に隣接した領域を保護するための保護手段を更に有しており、前記保護手段は、カニユーレであり、更に、前記主軸と前記カニユーレとの間に設けられた摩擦を減少させるための手段を有することを特徴とする請求項 9 に記載の切断器具。
12. 前記摩擦を減少させるための手段は、少なくとも 1 つのブッシュであるか、或いは、少なくとも 1 つの軸受であることを特徴とする請求項 11 に記載の切断器具。
13. 前記乳化手段は、のこ歯状切断ヘッドであることを特徴とする請求項 1 又は 3 に記載の切断器具。
14. 前記乳化手段は、全体として火炎状の切断ヘッドであることを特徴とする請求項 1 又は 3 に記載の切断器具。
15. 前記支持手段は、前記主軸が外科的部位に隣接した領域を保護する前記保護手段から突出しないようにするための深さ停止部を含むことを特徴とする請求項 1 に記載の切断器具。
16. 前記支持手段は、主軸と、取付け軸とを含み、前記取付け軸は、外科用ドリル内へ挿入できるような直径を有することを特徴とする請求項 1 に記載の切断器具。
17. 前記主軸、前記取付け軸及び前記切断ヘッドは、外科用焼入鋼の単一片で形成されることを特徴とする請求項 16 に記載の切断器具。

18. 前記乳化手段は、該乳化手段の長さ方向に沿って延びる中心軸線のところに位置した重心を有することを特徴とする請求項 1 又は 3 に記載の切断器具。
19. ドリルのコレット上を摺動するためのガードを更に有し、前記ガードは、該ガードの長手方向に沿って延び、かつ、前記支持手段を挿通させることができる開口部を有することを特徴とする請求項 1 ～ 1 8 のいずれか 1 項に記載の切断器具。
20. 前記導入先端部は、該導入先端部の外面上に位置した少なくとも 1 つの刃を有することを特徴とする請求項 1 ～ 1 9 のいずれか 1 項に記載の切断器具。